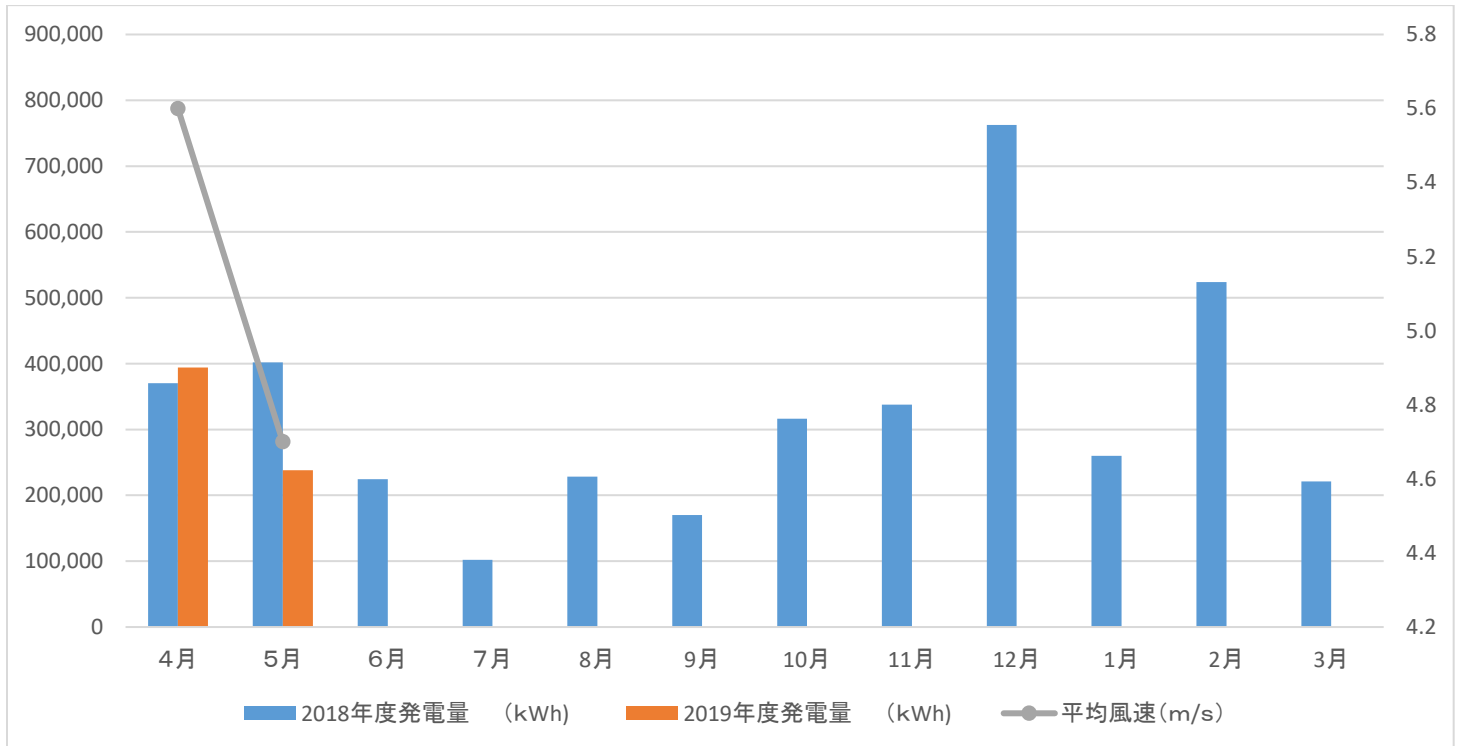


秋田県にかほ市に生活クラブ東京・神奈川・埼玉・千葉が建設した生活クラブ風車「夢風」に関するニュースをお届けします。

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町1-6-9 大内ビル3F 一般社団法人グリーンファンド秋田

発行責任者 半澤彰浩(代表理事) 編集責任者 鈴木伸予

○ 発電実績



5月度運転状況について

- 風況は前年同月より0.9m/s低くなりました。
- そのため、発電量も前年より下回っています。
- 5/6～10、13に、7.0年次点検を実施しました。
5/23に、受変電設備の年次点検を実施しました。

	発電量 (kWh)	平均風速 (m/s)	稼働率 (%)
4月	393,953	5.6	98.3
5月	238,301	4.7	92.4
6月			
7月			
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

第11期グリーンファンド秋田社員総会報告

2019年6月3日、第11期グリーンファンド秋田社員総会を開催しました。

グリーンファンド秋田の社員は、生活クラブ東京、生活クラブ神奈川、生活クラブ埼玉、生活クラブ千葉、NPO法人北海道グリーンファンド、(株)市民風力発電の6名です。各組織を代表して社員6名全員の出席がありました。半澤代表理事を議長として、以下の議案を審議しすべて承認されました。

第1号議案、第11期（2018年度）事業活動報告及び決算書類の承認。監査報告。

第2号議案、第12期（2019年度）事業計画及び予算の承認。

第3号議案、役員を選任

役員改選により選任された役員をご紹介します。役員の任期は第13期（2020年度）社員総会までとなります。また、監事は継続で任期は第13期社員総会までです。

理事	生活クラブ生活協同組合・東京	常勤理事	大石冬刀
	生活クラブ生活協同組合・神奈川	専務理事	半澤彰浩
	生活クラブ生活協同組合・埼玉	常務理事	須長雅和
	生活クラブ生活協同組合・千葉	常勤理事	山崎倫一
	NPO法人北海道グリーンファンド	理事長	鈴木亨
	株式会社市民風力発電	事業開発部プロジェクト担当部長	奥原正好
監事	生活クラブ生活協同組合・神奈川	常勤理事	岡田一弘
	株式会社市民風力発電	取締役	滝本しのぶ

総代会後の第1回理事会で、代表理事に継続して半澤彰浩が選任されました。

社員総会記念学習会報告



第11期社員総会記念学習会を講師に公益財団法人自然エネルギー財団気候変動マネージャーの西田裕子氏をお迎えして開催しました。内容は、政府が提案した「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略案」の対案として、自然エネルギー財団が提案する「脱炭素社会へのエネルギー戦略の提案—2050年CO2排出ゼロの日本へ—」についてです。

自然エネルギー財団の提案は、2050年CO2排出ゼロの実現のためには、2030

年までの大幅な削減が必要なこと、そのためには政府の言う「非連続なイノベーション」に夢を託す

のではなく、いま利用可能な、エネルギー効率化＋自然エネルギーの活用をすすめるべきということです。

また、この観点から、分野ごとに5つの戦略を提起されています。1、2030年までに自然エネルギー電力40～50%、2、石炭火力を2030年以前にフェーズアウト、3、素材産業の脱炭素ビジネスモデルへの転換、4、住宅・建築物を「ゼロエミッションビル」へ、5、運輸部門のEV化とエネルギー効率化。

自然エネルギー財団の試算によると、現在ある太陽光発電と風力発電の計画からの2030年導入見込みは186GW、自然エネルギーで40%強の供給となり、さらにエネルギー効率化で電力需要を10数%削減すれば、2030年に自然エネルギーで50%は可能だということです。

一方、原子力発電は、2017年度で3.1%の供給しかなく、40年で廃炉ルールを守れば2050年には新設2基（島根3号機、大間）が無ければ容量ゼロとなる。今後、既存の原発のいくつかの運転期間延長が認められたとしても、2050年とその先を展望し、原子力発電は脱炭素社会を担う電源にはなりえないということです。

質疑では、自治体が水素の活用には逃げているが、という意見があり、西田さんからは、自動車は急速に電気自動車に向かっており、水素を使う燃料電池車依存は世界の流れからは外れているし、特に自治体が水素の活用推進をやるべきではないとのこと。また、電力会社も水力100%の自然エネルギー電気メニューを出し始めたことは、2～3年前には考えられなかったことで、需要側からの動きの成果です。しかし、もっと脱炭素に向けてのスピードをアップする必要があり、そのためには政府を動かす必要があるということです。

庄内・遊佐太陽光発電所のオープニングイベントが行われました

2019年5月30日に、山形県酒田市で「庄内自然エネルギー発電/庄内FEC自給コミュニティ オープニングイベント」が開催され、「庄内・遊佐太陽光発電所」開所記念現地見学会が行われました。

この発電所は、(株)庄内自然エネルギー発電が、山形県遊佐町吉出地区に建設し、今年の2月から稼働したもので、年間計画発電量は18MW（一般家庭5,700世帯分/年間）です。

「庄内・遊佐太陽光発電所」は、庄内の地域資源である自然エネルギーで発電した電気を庄内地域に供給すると同時に、その事業から生まれる利益を持続可能な地域づくりに活用することをめざしています。発電所の建設に当たっては、庄内の方々をはじめ、全国の生活クラブ組合員など400名を超える市民から建設資金の参加がありました。



今後は、発電所の収益の一部を積み立てる「庄内・遊佐太陽光基金(仮称)」を創設し、豊かに生きいきと暮らし続けていける持続可能な庄内の未来をつくります。



映画「おだやかな革命」のトークセッション

また、翌日5月31日には、遊佐町の鳥海温泉遊楽里「鳥海文化ホール」で、ドキュメンタリー映画「おだやかな革命」の上映会が開催され、遊佐町の皆さんを中心に130名の参加がありました。

映画上映後には、映画監督の渡辺智史さん、生活クラブ連合会常務理事の伊藤由理子さん、庄内自然エネルギー発電取締役の半澤彰浩さんによるトークセッションも行われ、食(F)、エネルギー(E)、ケア(C)の自給を通じて持続可能な庄内をつくるスタートとしての想いを語っていただきました。

生活クラブ東京の設立50周年イベントに参加しました

5月25日大田区平和島のTRC東京流通センターで、「生活クラブ50周年記念フェスタ」が開催されました。テニスコート約17面も入る広大な展示場には、生産者・運動グループのブースが100以上も出展し、たくさんの来場者でにぎわいました。

秋田県にかほ市からも、伊藤製麺所の伊藤さん、日南工業(株)の服部さんにご参加いただき、「タラーメン」の試食を提供してアピールをおこないました。

タラーメンは、まだ食べたことが無いという組合員の方も多く、おおぜいの方にタラーメンを味わっていただくことができました。また、鱈しよっつるについても、しよっつるとは何か、特徴は、などの質問が組合員からあり、直接生産者が応えていただくことができました。

5月としては記録的な暑さの中、試食とアピールをありがとうございました。

